

第 16 週

質問 40. なぜキリストは、ご自分を死にまで、卑しくする必要があったのですか。

答え I 神の公義と真理が要求したからです。⁰¹ 神の御子の死による以外には、私たちの罪に対する神の公義を満足させられるからです。⁰²

① 神の正しさに従って罪人は必ず死ななければなりません。キリストが現れたのは、私たちの代わりに神の審判を受けるためだったのです。これは、神の公義を充足させるために必要だったから、キリストは私たちのために、神の公義を満足させるために死なれました（ロマ 5:8, 6:23、マタイ 20:28）。

② 神の公義が、キリストの死を要求しました。神の公義は、罪に対して死によって裁かれるのです（創 2:17、ロマ 6:23）。異邦人の場合にも、良心に律法が刻まれているから、罪に対する、死の審判は当然です（ロマ 1:32）。それゆえキリストは、選ばれた罪人たちの代わりに、神の公義を満足させるために死ななければならなかったのです（へブル 10:4-9）。キリストの死以外に、罪が赦される他の方法がなかったから、ご自分を死に至らせるまで従順なされたのです。

01 創世記 2:17.

02 ロマ 8:3、ピリピ 2:8、へブル 2:9, 14-15.

③ 神の真理が、キリストの死を要求したからです。神の御子が、私たちの罪のために死なれることは、旧約から預言されていました。それは、御言葉によって預言されていて（詩 18:1-5、22:15、イザヤ 53:8）模型としても見せられました（ヘブル 9:9-14）、彼は、選ばれた者たちの罪のために死ななければならなく（イザヤ 53:8-12）それは、神と約束されていたことでした。従って、彼は、ご自身を犠牲のいけにえとして神にお捧げになりました（エペソ 5:2）。

キリストは、ペテロや弟子たちや御使いたちによって死の瞬間から救出されたのではなく、それは、聖書の約束が成就されるためでした（マタイ 26:54、1 コリント 15:3）。従って、キリストの死の力と効力は、ただ、神に選ばれた民に有効です。つまり、まことの信者にだけ有効なのです。

④ 恵み契約には、贖いと罪の赦しが約束されています。キリストはご自身の死によってそれを確証させました（ヘブル 9:15-17）。父なる神は、キリストに死ぬことを命令し、キリストは従順したのです（ピリピ 2:8）。キリストは、それを父と約束し（詩 40:6-8）、選ばれた者たちに向けられる父の、この上ない愛が、キリストにそうするように要求したのです（詩 69:9、ヨハネ 15:13）。

質問 41. なぜキリストは「葬られ」たのですか。

答え I それによって、この方が本当に死なれたことを証しするためです。⁰¹

① 一般的に十字架に付けられ死んだ者は、一日以上、かけられたままにして置かれず、十字架にかけられた者の死を早めるためにすねを折ります（ヨハネ 19:31-32）。イエスさまが十字架で亡くなられた時、兵士たちはその傍にいた二人の強盗のすねを折りました。しかしイエスさまはすでに亡くなられていたため、すねを折りませんでした。

01 イザヤ 53:9、ヨハネ 19:38-42、使徒 13:29、1 コリント 15:3-4。

その代わり、兵士たちがイエスの死を証明するために、わき腹を槍で突き刺すと、血と水が流れ出たのです（ヨハネ 19:34）。

この事件は、イエスさまが実際に亡くなられたことを証します。アリマタヤ・ヨセフがピラトに行ってイエスさまの体を渡すよう要求した時、ピラトはイエスの死を百人隊長に確認するよう命令を下します。そして、死んでいることを確認した後にイエスの体を引き渡しました（マルコ 15:43-46）。この事件は、やはり、イエスさまが実際的に亡くなられて、葬られたことを確かにしています。

② イエスさまが十字架上で死なれた後、十字架にそのまま付けられたままではなく、お墓に葬られました。それは、イエスさまがまことに死なれたことを証明します。従って、その死と同時に葬られたことは、信仰の教理にあってとても重要です（1コリント 15:3-4）。イエスさまの死について、これほど強力な証拠はないでしょう。完全に死なれたから葬られたことで、もし、命がまだ残っていたなら、葬られなかったでしょう（マルコ 15:44-45）。

キリストの葬られることも預言されていました（イザヤ 53:9、詩 16:10）イエスご自身も先に語られました（マタイ 12:40）。イエスさまの葬られたことは、私たちの信仰の確証に大きな有益を与えます。イエスさまが私たちのために死なれたことと、葬られたことは疑いの余地がありません。これは、私たちの信仰を強くさせ、私たちを贖われた神に対する確信を持つようにしてくれます。

③ イエスさまの葬られたことは、一番、低いところまで自身を卑しめられたことを意味します。地の下の一番暗い所に閉じ込められたとは、一番、謙遜なところにまで至ったのです（エゼキエル 26:20、エペソ 4:9）。それによってキリストは、選ばれた者たちの罪に対する呪いを完全に取り除いてしまわれたのです（ゼカリヤ 3:9）。イエスさまのこのような死と、葬られたことは、選ばれた者の回心の時に、その古い人が、葬られたこととして適用ができます（ロマ 6:4）。

質問 42. キリストが私たちのために死なれたのに、なぜ、私たちはまた、必ず死ぬのですか。

答え I 私たちの死は、自分たちの罪を満足させるものではありません。⁰¹ 死は私たちに、それ以上、罪を犯さなくさせ、永遠の命へと導く関門なのです。⁰²

① 死は、罪に対する刑罰として始まりました（創 2:17、ロマ 6:23、1 コリント 15:56、ヘブル 9:27）。罪人にとって死は、刑罰ですが、死によってすべてが償える訳ではありません。ただ、永遠の刑罰の始まりに過ぎません。しかし、聖徒にとっての死は、この地での生活を終えることです（1 コリント 15:26）。なぜなら、イエスの死が、私たちの罪のすべてを支払ったからです

イエスさまが完璧な贖いのいけにえとして、私たちのすべての罪を満足させたなら、罪に対する審判もないでしょうし、死やこの地での苦しみも、ないのではないかと反問することもできます。あるいは、罪の赦しがあったのに、相変わらず苦しみがあるのは、これは、神の審判ではないのかと質問することもできるでしょう。

② しかし、聖徒にとっての死と苦難は、罪に対する審判ではありません。死と苦難は、聖徒たちの罪に対する懲らしめのためです。つまり、聖徒を低くさせ（謙遜にさせて）、矯正させるためのものとして、聖徒の有益のためです（ヘブル 12:6-11）。一時的な苦難と死は、聖徒たちに歓迎されるべきのものです。聖徒にとっての死は、この地において、すべての内的な困難と悲惨さから救い出されることだからです。

勿論、死に対するこのような態度が、この地において、悲観的に消極的に生

01 詩編 49:7.

02 ヨハネ 5:24、ピリピ 1:21-23、1 テサロニケ 5:9-10.

きても良いと言う意味ではありません。かえって、永遠のところに望みをおき、この地での困難と苦難を克服できるようにさせてくださるものです。それゆえ死は、審判ではなく、彼らの悲惨さから救い出されることです（黙 14:15）。聖徒は死を通して、彼らに苦しみを与える罪を、それ以上、犯さなくても済みます（ロマ 6:7）。また、彼らの死は、永遠の命へ入る関門になるので（ヨハネ 5:24, 12:26、II コリント 5:1）、むしろ、栄光と楽しみを得させてくれます（II コリント 12:9-10）。死は、彼らが、長い間、待ちに待ったものを得るようになる道です（ピリピ 1:21, 23）。

③ しかし、ある者は、エノクとエリヤは死を見ずに天に挙げられました。そうだとすれば、なぜ、今日も、神がそのようなことを行わないのかと質問することができます。神は、すべての聖徒が死を迎えるようにされました。その理由は、キリストの恩徳を漸進的に適用させるためです。

私たちは、完全な聖化には至らないです。肉身を持っているかぎり、やはり、罪が残っていて、この世で生きる限り、悪魔が存在するので罪を犯します。ですから、キリストを頼るしかないのです。キリストは、聖霊の力と恵みによって聖徒たちに、罪を憎むように、罪と戦うようにさせます。そして、その恵みによって、さらに謙遜にさせ、死を通して、キリストの苦難と死が、いかに貴いことなのかを再び悟らせます。

質問 43. 十字架の犠牲と死によって、私たちが得られる、また、他の有益は何ですか。

答え I 私たちの古い人が、その方と共に十字架につけられ、死んで、葬られたことによって、肉体の腐敗性の性向が、それ以上、私たちに支配できなくなり、⁰¹ 私たち自身を、感謝の生きた供え物として、この方へ献げることができます。⁰² ⁰³

① キリストの死によって、私たちが第一に得られる有益は、私たちの罪の赦しと罪からの救いです。キリストの十字架の死は、この地において、私たちの生活に大変重要です。私たちの聖化は成就させるからです。キリストの十字架の死と、その葬られたことは、私たちの生活を主管しようとする罪の力を剥奪させたことです。

罪の力は、律法です（Iコリント 15:56）。律法は、罪の奴隷となっている者たちを罪と定め（ロマ 7:5, 13）、今もやはり働いています。キリストは、その死と葬られたことによって、律法を満足させ、選ばれた者たちが、それ以上、罪の主管の下にいないようにされました。それで聖徒たちは、律法の下にいては、恵みの下にいます（ロマ 7:14）。

② それゆえ、キリストの死と関連して、私たちがキリストの中にあるようになれば、私たちの生活は完全に違った生活になります。キリストにあって、私たちの古い人が十字架につけられました。それを通して、私たちには罪を殺す現象が起きます。勿論、私たちが新生したとしても、肉体の罪となる欲望がまだ活動します。そのようなものが、それ以上、私たちを主管することはできないけれど（ロマ 6:12, 14）、私たちは、私たちの中にある、腐敗された本性をさらに殺すことです（ロマ 6:13）。

信仰によってキリストにつき合わされている、もう一つの有益は、私たちに聖霊が与えられたということです（ガラテヤ 3:13-14）。それで私たちは、聖霊によって罪を殺すことができ、また殺さなければなりません（ロマ 8:13）。古い人を殺すのと同時に、もっと、積極的に私たち自身を区別させ、神に感謝の礼拝を捧げるべきです（ロマ 12:1、ヘブル 12:28）。

01 ロマ 6:5-11 ; コロサイ 2:11-12.

02 ロマ 6:12-14.

03 ロマ 12:1 ; エペソ 5:1-2.

③ それゆえ、ある人が、まことにキリストと結合されていて、また、キリストにあって義と認められたのなら、必ず、証拠が表れるようになっていきます。古い人は十字架につけられ、新しい心を所有した中で生きて行くことだから、変化の効果が必ず表れるべきです。このような新しい生活の変化において、一番根本的で、重要な証拠は、罪を殺すことです。

罪を殺そうとすれば、先に、罪を憎まなければなりません。すでに、罪のひどさを経験しているからです。また、罪に対して受動的に対応せずに、積極的に罪と戦うのです。このように罪と戦うのは、私たち肉の力では不可能です。それゆえ、ますます恵みを求めるようになっていきます。キリストが聖霊をくださったから、聖霊の恵みによって罪と戦うのです。罪を憎みながら戦う中で、その霊魂は、さらに聖なる生活の証拠が表れるでしょう。救いの恵みの証拠が生活の中で明白に表れるでしょう。それは、すなわち、キリストの死によって得られる聖徒の有益です。

質問 44. なぜ「陰府^{よみ}にくんだり」と、言葉が続きますか。⁰¹

答え I 私の主イエス・キリストは十字架上で、言葉で表せない苦悩と苦痛と恐れを経験する中で、私を地獄⁰²の苦しみから救ってくださったとは、私が大きな誘惑を受ける時、私自身を十分なほど、慰めと確信とを持たせてくださいます。⁰³

① 陰府とは、ヘブル語から出て来た表現であり、ハデスは、ギリシャ語で地獄として翻訳されます。地獄の意味は、罪に定められた者たちの場所であり（マタイ 11:23、ルカ 16:23）、限りのない苦痛の場所です（詩 116:3, 30:3, 86:13）。ここで、キリストが葬られたという、次の聖句に、陰府に下られたという言葉が追

加されたことについて色々の解釈があります。

第一、死の状態にいたことを意味することとして解釈されたり、第二、キリストが味合われた地獄の苦痛を意味することとして説明されたりもします。第三、キリストが十字架にかかり死んだ後に、陰府にいるすべての死んだ霊魂たちに実際にご自身を現したこととして解釈したりもします。しかし、改革教会は、第三の解釈は排斥します。

第三の解釈は、教会史の学者である、フィリップ・シャープが主張しました。しかし、ルカの福音書 23 章 43 節では「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」との御言葉と衝突するので、受け入れ難い解釈です。最も、使徒の働き 2 章 27 節に出て来る御言葉は、つまり「あなたは、わたしの魂を陰府に捨ておくことをせず、あなたの聖者が朽ち果てるのを、お許しにならないであろう」という御言葉を見た時、第三の解釈は無理があります（詩 16:10）。

一方、ローマカトリック教会は「こうして、彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた。これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。」 I ペテロ 3 章 19-20 節の御言葉を根拠に、ここに出て来る獄をリンボと呼びます。しかし、この御言葉に登場する霊たちを、旧約の聖徒たちを指すことと見ることはできません。ローマカトリック教会のリンボと、煉獄教理は、聖書が教えているのではありません。

01 韓国版、使徒信条には、この言葉はありません（初期韓国長老教会からなかったのですが、その当時、宣教師たちの故郷であったアメリカの多くの教会で使用されていた使徒信条には、この言葉がなかったからだと推定されます）。その理由は、たとえ、この問題について信じてはいたけど、長い間、使徒信条の写本にはこの言葉がなく、アタナシウス信条で発見されたが、ニカイヤ信条にもないからです。

02 詩 18:5, 6、マタイ 26:36-46, 27:45-46、ヘブル 5:5-10。

03 イザヤ 53 章。

第四の解釈は、ルター教が主張したことです。これもやはり、I ペテロ 3 章 19-20 節の御言葉を持って、キリストがご自分の死と復活の間に、地獄の悪い霊たちに行って、ご自分の勝利を宣言したこととして解釈します。しかし、キリストは十字架ですでに勝利しました（コロサイ 2:15）。キリストの昇貴を通して勝利は宣言されているから（詩 68:18）、キリストがわざわざ、そのようになさる理由がないのです。従って「陰府にくだり」とは、キリストの葬られたことを強調し、確認させるためのものとして、キリストの霊魂の言いようもない苦痛を表現することと見るべきです（詩 16:10, 116:31）。

② キリストはまことに地獄の苦しみを味わいました（ヨハネ 12:27, 13:21、マタイ 26:37 - 38）。キリストは、十字架にかかる前、恐ろしい苦悩の中にいました（ルカ 22:44）、十字架の上でも言い難い苦痛の中にいました（マタイ 27:46）。このようなキリストの苦痛は、その選ばれた民たちに、罪の力と、罪の性質について深い理解を持たせてくれます（II コリント 5:21）。罪の凶悪さ、恐ろしさ、嫌悪な性質についても悟らせてくれるのです。

罪に対する刑罰の重さも、また、知るようになります。選ばれた者たちの罪を解決するために、キリストがこのように刑罰を代わりに受けられたのです。キリストは、全てのことを失う経験をされました。父からの愛までも取り去られる体験をしました。

キリストは、地獄の暗闇の中で放棄されているのと同じでした。暗闇と失望と恐れが心に満ちていました。神は、キリストに御怒りをぶち負けたからです。それで私たちは、特に、誘惑を受ける時、キリストの残酷な苦難を記憶し、それによって罪の赦しに対する確信を得るようになります。そしてさらに進み、キリストが、将来に来るべき神の審判からも、私たちをお救いになることを確信できるようになります。しかし、愚かな罪人たちは、苦難の中で不平を言います（ヨブ 6:4, 30:21）。